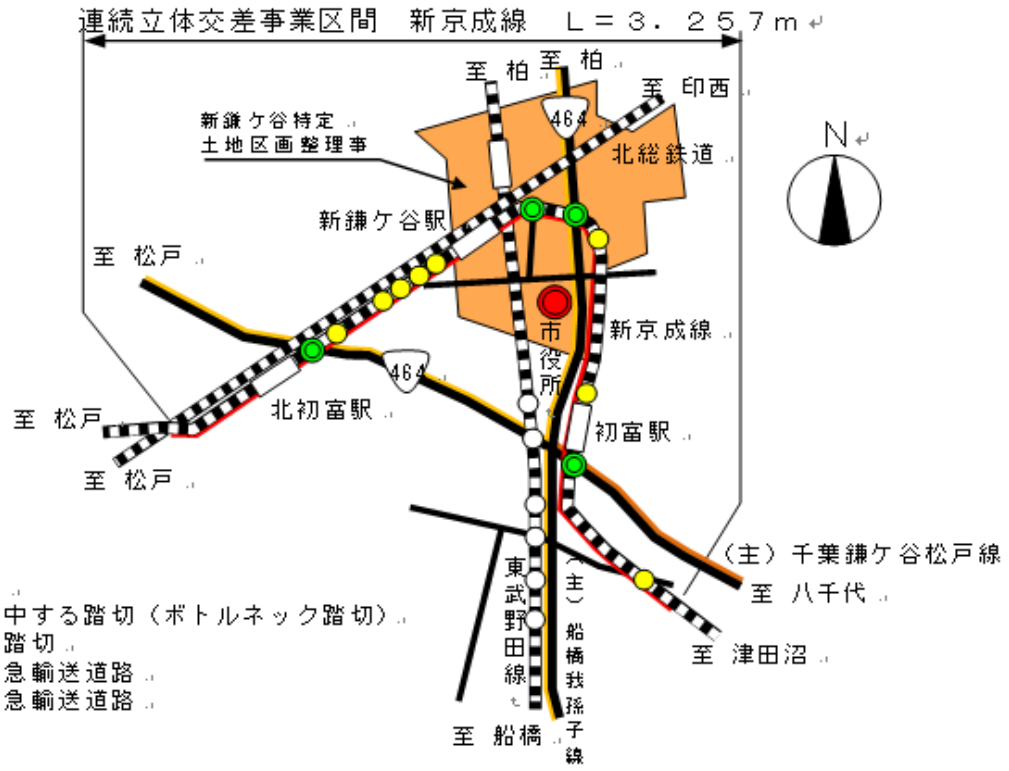


再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：本田 武志

事業名	新京成電鉄新京成線（鎌ヶ谷大仏駅～くぬぎ山駅間）	事業区分	連続立体交差	事業主体	千葉県
起終点	自：千葉県鎌ヶ谷市南初富6丁目 至：千葉県鎌ヶ谷市北中沢1丁目			延長	3.3 km
事業概要					
既存の踏切10箇所を除却することにより、交通渋滞や踏切事故の解消を図るとともに、鉄道により分断された市街地の一体化を図る					
平成10年度事業化	平成10年度都市計画決定	平成14年度用地着手	平成14年度工事着手		
全体事業費	495億円	事業進捗率	89%	供用済延長	0km
計画交通量	267,161台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 1.9 (残事業) 6.4	(残事業)/ (事業全体) 70 / 513 億円 事業費：68 / 512 億円 維持管理費：1 / 1 億円	(残事業)/ (事業全体) 443 / 972 億円 走行時間短縮便益 394 / 891 億円 走行経費減少便益 43 / 63 億円 交通事故減少便益 7 / 18 億円	平成30年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量	: B/C=1.7~2.1 (交通量 ±10%)		(残事業) 交通量	: B/C= ~ (交通量 ±10%)	
事業費	: B/C= ~ (事業費 ±10%)		事業費	: B/C=1.7~2.1 (事業費 ±10%)	
事業期間	: B/C= ~ (事業期間 ±20%)		事業期間	: B/C= ~ (事業期間 ±20%)	
事業の効果等					
旅行速度の向上、踏切遮断時間の解消、踏切事故の解消の効果が期待される					
関係する地方公共団体等の意見					
・ 消防：下り線が高架化したことにより渋滞が減少したと感じられる。今後、上り線が高架化することで、さらに渋滞が現状し、搬送時間等が短縮できることを期待している。					
事業評価監視委員会の意見					
・ 特になし					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
・ H25～H29で踏切事故が15件（うち死亡事故1件） ・ 近隣で実施していた区画整理事業がH21に換地処分され、H25に事業終了					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
・ 事業費ベース89%、用地取得率100%、残事業：高架橋工事等					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
・ 平成31年度全線高架化予定					
施設の構造や工法の変更等					
・ 基礎杭工事の内容変更					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					
・ 費用便益費（B/C）が1.9であり費用対効果が見込めるため ・ 救急搬送時間短縮による救命活動支援等の一助となる					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。